

○19番（高木将議員） 19番高木将でございます。ただいま、今議会最後の一般質問者というふうに言われましたけれども、私は今期4年間の最後の定例会一般質問の最後の質問者として、事前通告に基づきまして発言をさせていただきます。

私は平成3年4月の初当選後の最初の定例会であった6月議会から今日まで、約60回を超える回数の一般質問をしてまいりました。市民の皆様の生命・財産を守るにはどのような施策を展開すればよいのだろうか、市民の皆様の安心・安全を図るにはどのようにすればよいのだろうか、無駄のない財政のあり方のために何をなすべきか、そのような思いを持って、県内各地の市町村議員とともに茨城市町村政策研究会という勉強会を立ち上げ、その仲間たちとともに研究し、行動し、発言してまいりました。そして私は常々、きょうの行動はきのうまでの経験の集大成、そのように考え、行動してまいりました。そして、この27年の間には数多くの選挙がありました。

ここから通告してあります一般質問に入らせていただきます。

私にとっての初めての選挙、平成3年4月の投票率は83.17%もの高投票率でありました。当時は、ほかの各種の選挙におきましても、現在よりは高い投票率であったように思っております。しかしながら、この間、国、地方を問わず、政治家や官僚の不祥事が相次ぎました。また、各地で政務活動費の不正利用なども相次ぎ、政治不信、そして政治家不信に拍車がかかってしまったものと思っております。

ほかにも数々の要因はあると思いますが、このような状況のもと、残念ながら昨今の各種選挙における投票率が低下傾向になってしまったように思っております。地方議会の選挙では立候補者が少なく、無競争となっている選挙も数多く見られる状況ともなっているのも現実であります。国によって選挙制度は違いますが、我が国の選挙における投票率は世界各国の中でも非常に低い。結果として民主的国家としてのランクづけも低い位置づけとなっているようであります。

当市における各種の選挙における投票率も低くなってきているわけですが、選挙で投票することは、主権者たる市民の皆様が直接自分の意思で政治に参加できる大切な機会だと考えます。そのことをしっかりと認識し、投票に行ってくださいこと、そしてその投票率が高ければ高いほど、その対象者となった者たち、すなわち我々政治家は、その重みをより一層しっかりと受けとめることにつながる、そのように思っているところでもあります。

10年前でしょうか、住民投票のことを思い出していただきたいと思います。財政が厳しいから市町村合併をしたのだから68人もの議員は要らない、自主解散してほしいとの市民の声に応えることのできなかつた常陸太田市議会に対し、市民が突き付けた住民投票の結果は、96%という圧倒的多数市民の意思によって、議会が解散させられました。このときの市民の皆様の強い思いは今もって忘れることはありません。

その後、今日まで、それぞれの議長の思いのもと、議会が一丸となって議会改革に取り組んできてはいても、当市議会議員選挙の投票率は低下の一途だと思っております。このことは唯一残念なことであります。現在と将来の常陸太田市のまちづくりを市民の皆様とともに創造する。そのためには、政治家や行政に関心を持っていただき投票率を高めることも大きな要因であると考

え、質問いたします。

1 点目として、市長選は昨年 5 月を含め過去 3 回が無投票でありました。そのためデータはとれませんが、市議会議員選挙は、残念なことに低下傾向にあると記憶しておりますけれども、合併後 3 回についてその投票率のデータをお示しいただきたいと思います。

2 点目といたしまして、選挙を管理する当局として、この間とってきた投票率向上対策についてお伺いたします。

3 点目に、結果としてのデータからの考察はどのようにまとめられているのかもあわせてお伺いたします。

大きな質問項目の 2 項目めに入らせていただきます。

2 項目めは、教職員の休暇制度の確立についてとうたっております。過日の茨城新聞に古河市教育委員会に関する記事が掲載されておりました。その記事は、本年度から古河市の小中学校 32 校で、夏休み中の 8 月 13 から 16 日までの 4 日間、冬休み中の 12 月 27、28 日の 2 日間、及び県民の日である 11 月 13 日の計 7 日間に学校閉庁日を設けるとした内容でありました。その日は教職員全員が出勤せず、部活動も原則行わない方針とのことであります。この措置は、教職員の休暇取得推進と健康増進を図るものとも記載されておりました。外部からの問い合わせにつきましては、古賀市教育委員会の事務局が対応し、緊急時は各学校長に連絡し、やむを得ず教職員が出勤する場合は校長の裁量で別の日に代休を取得させるということでありました。

さらには、2016 年度の教職員数は 661 人で、年次休暇取得は平日平均で小学校が 8.4 日、中学校が 7.1 日ということであります。時間外の平均勤務時間は、小学校が一月約 58 時間、中学校が一月約 80 時間と、長時間勤務が常態化しているようでもあります。

古河市の教育委員会は、働き方改革の一環として文部科学省が 2 月に示した指針と、県内の状況を踏まえ導入したとしてあります。全員が足並みをそろえて休みをとることで、教職員の休暇取得や時間外勤務、健康管理に対する意識を高めたいとしていることでありました。

この記事を見て、それでは我々のこの常陸太田市ではどのような状況なのかとの思いを持ちましたので質問させていただく次第であります。

1 点目として、常陸太田市立小中学校の教職員の年次休暇所得日数についてお尋ねいたします。

2 点目としては、同じく小中学校の教職員の時間外の平均勤務時間についてお尋ねいたします。

3 点目としては、常陸太田市立小中学校の教職員の休暇取得や時間外勤務、さらには健康管理に対する意識について、教育長としてどのように認識しておられるのかをお尋ねいたします。

次に、大項目の 3 点目に移らせていただきます。

園庭、小学校のグラウンドの芝生化について。これは幼稚園、保育園、こども園も含んだ質問でございます。

この質問に関しては、15 年前の 2003 年 6 月議会の一般質問で小中学校の整備についてとして、学校トイレのシャワーを含むトイレの洋式化と、不審者対策、太陽光発電による電力活用策などの質問とあわせて、グラウンドの芝生化についてを質問いたしました。そのうち学校トイレの洋式化と不審者対策については、対策がとられておりますことに感謝を申し上げるところで

あります。

当時よりもさらに少子化が進む現在、当市では子どもさんたちの減少に歯どめをかけるため、「子育て上手 常陸太田」をキャッチフレーズにさまざまな施策を展開し、成果も上がっており、改めてうれしく思っているところでありますが、私はさらに一歩進んで、常陸太田市の教育環境に安心と安全を組み入れたい、そのように思っているところであります。この思いは2003年当時と変わりありません。

具体的には、今回通告してあります園庭やグラウンドの芝生化であります。保育園や幼稚園では芝生化されていなくても、はだしになって園庭で遊ぶ、そんなところが数多く存在しております。きっと気持ちよいことと思いますし、足裏で直接地面を感じ取り、直接の刺激で健康にもよいともされております。しかし、かたい土の園庭、グラウンドでは、転倒時にはかなりの衝撃となりますし、けがを負ってしまう恐れもあると考えられます。

一方、園庭やグラウンドが芝生だったらどうでしょう。きっと衝撃も和らぐことと思いますし、けがの程度も軽いものとなると思っております。安心して駆け回ることができることと思います。芝生にすることによって、日差しの照り返しも少なく、目にも優しい緑、そしてやわらかな感触の心地よさ、時にははだしで遊ぶ、寝っ転がる。きっと心地よいことだと思っております。

芝生の手入れが大変であることも承知しております。しかし、さきに述べたように、よいところがたくさんあるとも思っております。

中学生の場合にはさらに運動量も増えますし、グラウンドを活用した部活動もあり、傷むことも多いかとは思いますが、その維持は大変だと思いますので、私は最初に申し上げましたように、保育園などから小学校までの対応ができないものかと思い、質問させていただきます。

常陸太田市は数々の少子化対策で各地からの視察が絶えません。また、医療費に対する施策も一歩進んで対応してまいりました。県内の各自治体でも少子化への対策に取り組みが進んできておりますし、茨城県においても同様の施策が展開することになり、いち早く子育て対策と、それに伴う人口増への対策などの優位性は低くなってきているように思います。住宅手当などの子育てへの各種の施策のほかに、教育環境を考えてみることも大きな要件かなというふうに思っております。

常陸太田市はさらに一歩進んで教育分野にも安心・安全な取り組みをしているぞ。そんなことが喧伝されれば、さらに常陸太田市に住んでみたい、常陸太田市の教育環境のもとで子育てをしたい、そんな若い世代が増える気がいたしております。

先ほどの宇野議員への教育長の所信、そして教育に関する思いをお聞かせいただきましたけども、さらにこの思いが強くなりました。初期経費や管理などに課題があることはわかりますが、Ｊリーグが動き出したこと、また、日韓ワールドカップが開催されたことの影響もあるかもしれませんが、学校グラウンドの芝生化を進めている地域は増えているものと思っております。

6年ほど前には同僚の藤田議員とともに、人工芝の学校と天然芝の学校を視察してまいりました。ひいき目かもしれませんが、そこで遊ぶ子どもたちは伸び伸びとグラウンドを駆け回っていたような気がしております。

２００３年当時と比べると、その後の少子化によって学校の統廃合が進み、結果として学校数が減りました。全部の学校やそれぞれの園を整備しても、その整備にかかる総経費は少なくなるものと思います。しかし、なかなか、２００３年当時も検討するというものでありましたが、遅々として進んでないことも事実であります。

そこで１点伺いたいと思いますが、モデル校もしくはモデル園を考えて実施することはできないか。芝の管理については誰が行うかとの課題もあると思いますが、このモデル校を選定して実施するという点に関しての質問について、お答えをいただきたいと思います。

１回目の質問を終わらせていただきます。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。総務部長。

〔西野千里総務部長 登壇〕

○西野千里総務部長 投票率向上対策についての３点のご質問にお答えいたします。

１点目の、合併後３回の投票率でございますが、４市町村の合併後となります平成１８年の市議会議員一般選挙におきます投票率につきましては、男６８．４９％、女７０．３０％、計６９．４２％。平成２２年は、男７１．６６％、女７１．４８％、計７１．５７％。そして平成２６年は、男２７．０８％、女５６．７５％、計５６．９１％となっております。

２点目の、投票率向上対策についてでございますが、選挙時におきましては、防災行政無線及び広報車によります投票の呼びかけや、選挙広報の市ホームページ掲載、さらには新聞折り込み、懸垂幕、のぼり旗の掲示、ショッピングセンター等における街頭啓発、市フェイスブックによる情報発信等を行っております。

選挙時以外の取り組みといたしましては、小中学生の明るい選挙啓発ポスターの募集や広報紙への記事掲載等を行っているほか、平成２８年に、太田第３投票所を初め、４カ所の投票所において、関係町会等との調整を行いまして、より利便性の高い施設へ投票所の変更を行いました。また、平成２７年の「公職選挙法」の改正によりまして、選挙権年齢が満２０歳以上から、満１８歳以上に引き下げられましたことによりまして、高校等において出前講座や模擬投票を実施し、期日前投票所の立会人や事務従事者に高校生を採用するなど、若者の選挙への関心や投票率向上に向けた取り組みを積極的に行ってまいりました。

３点目の結果のデータからの考察についてでございますが、本市の投票率は平成２８年の参議院議員通常選挙や、昨年の茨城県知事選挙及び衆議院議員総選挙におきまして、いずれも県平均を上回る県内で５番目に高い投票率となっております。これまでの投票率向上対策に一定の効果があらわれてきているものと考えております。特に本市の期日前投票率におきましては、昨年の県知事選挙で２３．６９％、こちらは県内第１位となっております。その後の衆議院選で８．８９ポイント増の３２．５８％、こちらは県内第３位となっております。そうした数値まで伸びてきておりまして、期日前投票をする者が増えてきておりまして、引き続きまして有権者の投票傾向を分析いたしまして、投票率向上につながるよう投票所の環境整備に努めてまいります。

一方、昨年の衆議院選のデータから年齢階層別に投票率を見ますと、２０代は２３．６７％、３０代が３０．４９％となっており、著しく低い傾向にありますことから、今後におきましては駅

や高校、企業等において若者に対する投票の呼びかけを強化するとともに、先進事例の調査・研究を行いながら、投票率向上に向けた周知啓発等の取り組みをより一層推進してまいります。

○益子慎哉議長 教育長。

〔石川八千代教育長 登壇〕

○石川八千代教育長 教職員の休暇制度の確立について、3点のご質問にお答えいたします。

まず、小中学校教職員の年次休暇取得日数であります。本市過去3カ年の職員1人当たりの年間平均取得日数ですが、小学校教職員では8.7日、中学校教職員では8.5日となっております。

次に、時間外の平均勤務時間につきましては、これまでは当該教職員の自己申告により管理職が教職員一人ひとりの時間外勤務時間に関する管理を行ってきた経過があり、市教育委員会では各学校に教職員の時間外勤務の実態について報告を求めています。この5月からは市教育委員会としまして、各学校に対しタイムレコーダーソフトを活用することで、時間外勤務の実態を客観的データで管理するような体制整備を図ったところでございます。

続いて、3点目、休暇取得や時間外勤務、健康管理に対する教育長の認識についてのご質問にお答えいたします。

平成29年12月に文部科学省から示された学校における働き方改革に関する緊急対策の方針により、今年度は学校閉庁日を昨年度の県民の日1日から、夏休みの3日間を加え4日間に拡大し、教職員が休暇を取得できる環境の整備を図ってきたところでございます。

また、先ほど述べましたとおり、タイムレコーダーソフトを活用し教職員一人ひとりの時間外勤務の管理を行い、そのデータに基づき、特に連日退勤の遅い教職員に対してはサポートするよう管理職に働きかけてまいります。本市におきましても、このような取り組みを進めていくことで、教職員の働き方に関する意識改革と健康管理の徹底について努めてまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 教育部長。

〔生天目忍教育部長 登壇〕

○生天目忍教育部長 園庭、小学校グラウンドの芝生化について、モデル校、モデル園を設置して実施してはどうかのご質問にお答えいたします。

幼児期や学童期の学校等の施設の芝生化についての利点といたしまして、遊びや運動の場面でのけがの減少などの安全性の向上、外遊びが気持ちいいと感じる解放感や、はだしで踏む爽快感、座り込んだり、寝転んだり、教育や保育活動の多様性や活発化が挙げられます。さらに、強風時の砂ぼこりの飛散防止、降雨時の土流出防止、猛暑緩和など、環境面でのメリットも挙げられます。

一方、芝生化の課題といたしましては、スポーツや遊びに伴う芝生の傷みや芝生の養生期間の設定に伴う利用の制限などにより、教育や保育の活動上、一時的な支障を生じることが挙げられます。コスト面につきましても、土壌づくり、排水整備、散水整備など、工事費が高額になることや、肥料や害虫防除、芝生の成長時期の頻繁な芝刈りや散水など、施設管理者による維持管理労力や費用負担が高額になることなどのデメリットがあります。

さらに、学校等の施設の大規模な改修工事を初め、経年劣化により施設の修繕工事費用がかさむ現状を踏まえますと、小学校においては早期に、あるいは優先的に取り組む状況にはないのが現状であります。

しかしながら、幼稚園等におきましては園庭が狭いことからその一部分を芝生化にするメリット、デメリットを研究し、モデル的に園庭としての整備の可能性を現場の先生方や、保護者の皆様の意見を聞き、今後の課題としてまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 高木議員。

〔１９番 高木将議員 質問者席へ〕

○１９番（高木将議員） それぞれご答弁ありがとうございました。それでは一問一答式の質問に入らせていただきます。

まず、投票率向上対策についてお伺いいたします。直近の３回の我々市議会議員の選挙につきまして投票率をお示しいただきました。解散からその後の選挙での投票率に比べると、２回目のご努力もあったせいか若干持ち直したところだというふうに思っております。そして、残念ながら３回目はさらに低い５６％台ということでありましたけれども、この数字は多分、昭和２９年に前の常陸太田市が誕生した以来、最低の投票率だったというふうに思っております。この辺についてはいかがでしょうか。

○益子慎哉議長 総務部長。訂正を含めてお願いします。

○西野千里総務部長 はい。先ほど１回目の答弁の中で、平成２６年の投票率を男２７．０８％と申しましたが、５７．０８％に訂正させていただきます。

それでは、２回目のご質問にお答えいたします。投票率でございますけれども、議員ご発言のとおり最低の投票率というような数値になってございます。

以上です。

○１９番（高木将議員） はい。どうもありがとうございます。

○益子慎哉議長 高木議員。手を挙げてから言ってください。高木議員。

○１９番（高木将議員） 先ほど１回目にも申し上げましたように、議会が解散に追い込まれたというのは私の中ではとても大きいことで、その後の、直ちに実施された市議会議員の選挙であったわけですが、それでも７０％に届かなかったわけですね、平均が。これも、住民投票という行動に出た市民の方々、そしてそのとき寄せられた署名は３万３、０００を超える数だったというふうに記憶しておりますけれども、そういう強い行動に出た市民の皆様の思いが投票行動につながって、高い投票行動につながらなかったことは非常に残念に思っております。

そしてさらに、先ほど選挙システムといいますか、投票が１８歳からできるようになって３回の選挙が実施されましたけれども、その平均が非常に低いものであったということで、２０代の方が２３％台、３０代の方が３０．４９％でしたか、というような答弁がありましたけれども、この辺がやはり今後のさらに課題だと思っております。

これらについてもしっかりと、次、約１カ月半後に私どもの市議会議員の選挙がありますけれども、より身近な、１８人を選ぶという選挙になるわけですから、それ以上の数が出ることに

って初めて選挙が実施されるわけで、この常陸太田市に居住する、もしくはかかわる政治家の数は、衆議院議員、そして県議員、そして市長さん、さらには我々議会議員ということになりますけれども、一番数が多いのは我々市議会議員の選挙であります。ということは、より身近な選挙、もしかしたら今までかかわりのあった方々が出馬なさる選挙にもなるわけであります。投票率がより高くなって当然だというふうに私は認識をしているところなのですが、より積極的な啓発活動に従事していただければというふうに思っております。これは要望しておきます。

続いて、教職員の休暇制度に関連しての答弁をいただきまして、ありがとうございました。

小中学校教職員の年次休暇取得日数について承知いたしました。古河市さんよりも常陸太田市の教職員の方がより多い休暇を取得しておられるということで、そういった意味ではしっかりと取得をしているなというふうな認識をさせていただきました。

そして、時間外勤務時間の件なのですが、これは意外だったなといいますか、これまで職員の自己申告によって管理職が労務管理を行ってきたとのことで、少なからず驚いているところでもあります。また、当然の結果として教育委員会としても把握できていなかったというふうに理解をしているところであります。

そこでお伺いしたいと思いますが、本年5月からタイムレコーダーソフトを活用して時間外勤務を客観的データで管理する体制整備を図ることになったということでありましたけれども、この客観的データで管理する体制整備の中で、どの程度の時間外勤務時間をもって多過ぎるというふうに判断するのか、ある一定の基準が必要なのかなというふうにも思ったりはしております。その際、どのように管理職の方が当該教職員に対応するのか、先ほどは多過ぎるというような対応のことも、言葉ちょっと出てきませんが、申し述べておりましたけれども、その対応基準と、そしてその対応の仕方というものが非常に重要だと思っています。現在、決まったものがあるのかどうかをお尋ねしたいと思います。

○益子慎哉議長 教育長。

○石川八千代教育長 教職員の健康管理についての質問にお答えいたしたいと思います。

健康管理の面からは時間だけでははかれないとは思いますが、文科省の平成28年度教職員勤務実態調査では、1カ月当たり時間外勤務が80時間以上になると心身に不調を来す可能性が強まるとされております。そのような結果を参考にし、教育委員会としましても、今後、時間外勤務については十分検討し、学校に対し指導していきたいと思っております。

○益子慎哉議長 高木議員。

○19番（高木将議員） これは3項目とも一緒になってしまうわけですが、中学校の場合には、早朝練習、いわゆる朝練というのを約1時間ぐらい実施している部活動もあります。さらには、放課後は通常の部活動で2時間から3時間ぐらい、仮に3時間とすると朝練も合わせると1日4時間となってしまいますね。それから、通常のテスト問題の作成とか採点とか、それから1日のまとめ、一教員としての担任の作業が当然出てきます。仮にこれを2時間くらいやっただとすると、大体7時から8時の時間になると思うんです。1日そうすると5時間ぐらいになってしまうこともあると思います。5時間、6時間に。仮に朝練と部活がスムーズに進んだとして1

日が4時間としても、月20日とすると、それで80時間の時間外ということになるかと思います。多い方は100時間を超える人も出てくる場合が、研究指定校とかいうことになって、その担当の先生は、かなりの長時間の時間外勤務をしなければならない、100時間を超えることもあると思っています。

先ほど教育長さんからご答弁いただいた、タイムレコーダーソフトを活用して客観的データで管理するということでありましたけれども、もちろんこれも石川教育長さんになってすぐ始まった活用策でありますので、それ自体は評価するところではありますが、根本的な健康管理とか、心身ともに大変な職業であるという教職員に対しての認識を持っているところでもありますけれども、根本的な解決策ではないような気がするんですね。これは、常陸太田市としてはタイムレコーダーソフトを使うということは今年度始まったことですから、これからどのようにしていくかということをしかりと見させていただきたいと思いますが、何分にも、先ほどの投票率の件でお話ししたように、私どもの任期は8月5日までであります。その間、データがもし積み上げることができれば、文教民生委員会所属でもありますので、一月ごとでも結構ですので、お示しをいただければというふうにご要望させていただきたいと思います。

いずれにしても、心身ともに大変な職業というふうに思っておりますが、この教職員の方々の健康管理にはしっかりと、今までの経験を踏まえて、教育長として行動していただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

続きまして、学校グラウンド及び保育園等の園庭の芝生化でありますけれども、1回目の質問のときにも申し上げましたように、2003年のときの答弁では、「今後の課題としてまいりたい」という言葉で教育次長さんの答弁が終わりました。今回も教育部長さんの中で、そのときよりは一歩進んだようなご答弁をいただいたという認識はしておりますが、やはり「今後の課題としてまいりたい」と。従来から議会用語というのが数々ありまして、「課題としてまいりたい」というのは、私は新人の1期目のときに、前向きなご答弁なのかなと思っていたら、そのときの先輩議員から、高木くん、課題としてまいりたいというのは、やらないっていう議会用語なんだよっていうふうに言われたんです。そのことがずっと頭から離れないまま来ておりますけれども、先ほどの答弁は、今申し上げましたように、それよりは一歩進んだものと理解しております。

あとは、もう一歩進んで、先ほど部長のご答弁にもありましたように、園庭の場合は面積も小さい、さらには、その一部というふうなお話もあったと思っております。できれば一部ではなくて、本当は二、三校一緒にモデル校を選定すればいいと思うんですが、経費の問題もあると思いますので、一歩進んで、どこの園庭だったらどの程度の工事が必要で、どのような維持管理が必要かっていうのを試算まで例えばやっていただければと思います。その上で、今の太田の財政の状況ではすぐには対応不可能だというようなことがあったとすれば、それは致し方ないことだと思うんです。ただ、その前提として親御さんたち、もしくは、私は、地域の大切なお子さんたちとその親御さんたち、さらには常陸太田をこれまで牽引してくれた高齢者の方々が一緒にその芝生化した園庭で、安心して安全に3世代交流が図れる、地域交流が図れるようなことが大切なことなんじゃないかなと思っています。

その辺含めて、執行部側だけ、教育部局だけの判断ではなくて、お金ありきではなくて、心の部分もしっかりと協議をしながら、このことを進めていただければ、どういう結果が出ようとも納得できるんじゃないかなと思ってます。これは行政全般に言えることだとは当然思っておりますけれども。初めてなすことは特にその部分が重要だっていうふうに考えております。どうかそういうことも加味した上で、今後の課題としていつていただきたいというふうに思います。答弁は結構でございます。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。今期最後の一般質問の中での最後の発言者としてこの場に立たせていただいたことを感慨深く思いながら一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。